

IIBA®日本支部会員の皆様
IIBA日本支部法人スポンサーの皆様
IIBAよりBA情報送付ご希望の皆様

いつもIIBA日本支部の活動にご理解とご協力を頂きありがとうございます。
メールマガジン33号(紅版)をお送りいたします。

このメールマガジンは、真面目にビジネスアナリシスについて様々な情報を提供する「紅版(あかばん)」と、少しカジュアルな視点でビジネスアナリシスに関して幅広い視点で語る「藍版(あおばん)」を毎月交互に発行しています。

先月5月は初の試みであった連載AI小説の掲載を開始しました。いかがだったでしょうか。

さて今回は、ご好評いただいている代表理事寺島のコラムや、イベント情報など盛りだくさんでお送りいたします。

MENU

1. IIBA日本支部代表理事寺嶋一郎 コラム 『デジタルスキルにおけるビジネスアナリストの位置づけ』
2. BBC報告(簡易版)
3. 支部からのお知らせ(ITmedia、その他)
4. BA賞告知
5. 編集後記

1. IIBA日本支部代表理事寺嶋一郎 コラム

『Dデジタルスキルにおけるビジネスアナリストの位置づけ』

経産省の「Society 5.0時代のデジタル人材育成に関する検討会」の報告書が出されましたが、皆さん読んでみましたか。

▽検討会最終報告書

<https://www.meti.go.jp/press/2025/05/20250523005/20250523005.html>

▽概要版

https://www.meti.go.jp/policy/it_policy/jinzai/dxjinzaireport_summary_202505.pdf

現在の労働市場においては、スキルを身につけた人が必ずしも評価されず、個人学習やスキル習得のモチベーションが高まらないので、スキルベースのデジタル人材育成の在り方について議論されています。

この議論の中で注目すべき点は、IPAが提唱しているDSS-P(DX推進スキル標準)における「ビジネスアーキテクト」と人材類型の役割を、「ビジネスアーキテクト」、「ビジネスアナリスト」、「プロダクトマネージャー(プロダクトアナリスト)」の3つに再分類したということです。

以前、このDSS-Pで言っている「ビジネスアーキテクト」とは「ビジネスアナリスト」のことですよということを、何人かで経産省に行き指摘したのですが、経産省としても一度公的に発表したものをすぐに変えるわけにはいかないので、LTSの山本さんの提言を取り入れて、ああいう形になったのだと思います。

この報告書において、それぞれの人材の定義は以下のように書かれています。

「ビジネスアーキテクト」とは

- ・事業責任者などと連携して、自社のビジネスモデル・戦略を実行可能なビジネスアーキテクチャ(事業構造)に落とし込む。
- ・常に戦略、アーキテクチャ、各プロジェクトの一貫性を保ちつつ、各プロジェクトを支援。

「ビジネスアナリスト」とは

- ・ビジネスアーキテクトから高次要求を受け取り、サービス・業務の分析を通して、プロジェクトやプロダクトの要求体系を確立。
- ・プロジェクトのステークホルダーのハブとなり、関係者の協力体制を構築。

「プロダクトマネージャー」とは

- ・事業、製品・サービスの価値向上に向け、構想策定からサービス、その後の改善までのプロセスについて関係者をリードしながら一貫して推進

ということで、やっと「ビジネスアナリスト」という言葉が出てきたわけですが、ビジネスアーキテクトにしても、プロダクトマネージャーにしても、ビジネスアナリストの基本的なスキルを必要とするはずで、まずはビジネスアナリストを育成することから始めなければならないということを認識して欲しいものだと思います。今後の「DX推進スキル標準」の改訂に期待します。

AIが進化すればするほど、これからはビジネスアナリストの役割が一層大きくなっていくはずですが。ビジネスアナリストの輪を広げ、日本における「ビジネスアナリシス」に対する認知度を向上させていきたいものです。

(IIBA日本支部 代表理事 寺島一郎)

2. BBC報告(簡易版)

今年のBBCには3名の理事と1名の会員が派遣されました。今号では3名の理事の簡単な印象報告をまずはお知らせいたします。会員の皆様への正式な報告会は追ってご案内いたします。

塩田理事より 今年のBBCに参加して感じたのは、ビジネスアナリシス活動自体に生成AIが多く取り入れられている点、ビジネスアーキテクチャの議論が改めて多く見られた点、そして、もはやアジャイルという言葉をあえて取り上げなくても、ビジネスアナリシスの活動やテクニックの中にアジャイルやデザイン思考的なアプローチが自然に溶け込んでいる点でした。

(IIBA日本支部 メールマガジン編集部)

3. 支部からのお知らせ

3-1. ITmedia掲載のお知らせ

IIBA日本支部ではIT関連の情報発信メディアであるITmediaに、理事や会員の皆様にリレー形式でBAに関する様々な話題を掲載しています。今月は、塩田理事が出稿した「ビジネスアーキテクチャで変革のビジネスアジリティを実現する」が掲載されました。どうぞ以下のリンクからアクセスの上ご一読をお願いいたします。 [メディアエグゼクティブ](#)

3-2. ”BAかたりば” 第9回へのお誘い

毎回ご好評をいただいている”BAかたりば”ですが、次回は7月31日(木)19:00～の開催となります。今回はリアル会場でのFace to Faceの開催となります。テーマは「動かない人たちを動かす～ビジネスアナリシスが時計の針を進める～」といういささか刺激的なものになっています。リアルの場で熱のこもった議論が期待されます。次のリンクからぜひご参加くださいませ。 [”BAかたりば”](#)

(IIBA日本支部 メールマガジン編集部)

4. BA賞参加者募集中！

毎年恒例の「IIBA日本支部主催 BA賞」では、現在、BAに関心のある皆様からのご参加を心よりお待ちしております。BA賞は、ビジネスアナリシスを研究や実践する個人、団体の活動を称えるものです。評価は、挑戦的な試み、ユニーク性、チームワークなど幅広い観点で行われます。活動は実施中でも完了済みでもエントリー可能です。評価基準は、そのBA活動がより良い価値の創出につながるか、もしくはその可能性が高いかどうかです。こちらのリンクからご応募ください。

→ [こちら](#) のリンクからご応募ください。

(IIBA日本支部 メールマガジン編集部)

5. 編集後記 マーケティング担当理事 藤重 茂

今月号のメルマガはいかがでしたでしょうか。今回から、本文すべてをメールでお送りするのではなく、ヘッダー情報にリンクを貼る形式に変更しました。少しでも使い勝手がよくなれば幸いです。

さて、今年は近畿地方の梅雨明けは平年より22日も早い6月27日に明けてしまいましたね。嬉しいような寂しいような、不思議な心持ちです。関東地方はいつになるでしょうか。とはいえ、連日の猛暑で早くもへばり気味です。皆様もどうぞご自愛ください。

DXが注目され始めた5年ほど前から、それに呼応するようにビジネスアナリシスへの関心が高まっていました。そして、昨年経産省/IPAが発表した「デジタルスキル標準」にビジネスアーキテクトが定義され、その果たすべき役割が浸透するにつれて、さらにビジネスアナリシスに注目が集まっているようです。これは、DXの推進に必要な中心的な人材としてビジネスアーキテクトが位置づけられ、その役割の多くがビジネスアナリシスで定義されたスキルだからでしょう。やはりDXの正しい推進のためには、ビジネスアナリシスが不可欠であるということが、ようやく理解されてきているのだと思います。

◆ご意見・ご感想等ございましたら[こちらの](#) ABOUT US > CONTACT US からご連絡ください

<https://japan.iiba.org/contact-us>

◆配信停止ご希望の方へ

会員以外の方で、IIBA日本支部のイベント等にご参加いただき「情報提供希望」とされた方へも本メールを送信させていただきます。本メールマガジンの配信を希望されない場合、下記のアドレスに件名のみ記入したメールをお送りください。

宛先 secretary@japan.iiba.org

件名 unsubscribe

